

## 介護保険サービス・在宅医療部門

平成12年(2000年)4月にスタートした介護保険制度。当院では平成26年度より介護保険サービス、医療保険での在宅療養を開始しました。

### 業務内容

1. 介護保険サービスの利用相談、契約
2. 各居宅事業所との交渉、サービス担当者会議への出席
3. 外部事業所へ渡す各情報提供書の作成
4. 介護保険請求、サービス提供表実績返還
5. 田辺すみれハイム入居者の受診、検査日程の調整
6. 訪問診療、田辺すみれハイムの医療相談等の問い合わせの対応
7. 患者、利用者の送迎業務等

### 総評

通所リハビリテーションは、前年度から引き続きリハビリの人員や送迎の都合もある為、提供可能件数ほぼ一杯の状況となっている。

訪問リハビリテーションは、病棟のリハビリとの兼ね合いもあり、現状提供可能な件数一杯までできている。田辺すみれハイムの訪問リハビリテーションに関しても、提供可能な件数一杯までできている。

訪問・通所リハビリともに現状維持さらには、提供可能件数増加の対策を考えさらなる件数増加に努める。具体的取組については、思案中である。

訪問看護は、提供可能な枠はあるので、退院患者または居宅事業所等と連携を取りながら、件数増加に努める。

訪問診療料・在宅総合医学管理料・医師居宅療養管理指導は、予定通りの件数を算定できた。

薬剤師居宅療養管理指導は、平成29年4月よりとらや薬局に全面移行するため、28年度末頃から、徐々に件数減少している。

管理栄養士居宅療養管理指導は、栄養士の人員で現状提供可能な件数より少なくなっているが、栄養士サイドと連携を取りながら、対応可能な件数まで増加できるよう努める。

### 次年度の目標

- 安定した収益を確保するために、同法人の居宅介護事業所と連携を図り、サービスを全体的に増加させていく。また、他の事業所にも広報し件数増加に努める。
- 介護部門での需要はリハビリの需要が多く、現状ではリハビリスタッフの不足の課題もあるため、リハビリスタッフの増員や介護担当者の増枠など、できるだけ需要に見合った供給量を提供できるように調整していく。

介護報酬減算に伴い、収益の確保が難しい状況となつたが、地域の利用者様のニーズが満たせる様積極的に取り組んでいく。来年度はすみれホーム、さらには居宅介護事業所も開設されるため、事業所間での情報共有と連携強化により当院サービスの提供件数増加に努めたい。

## 平成28年度 看護部目標

## 1. 看護の質の向上を行う

- 1) 科学的根拠に基づいた看護の実践
  - (1) 患者を中心に考えた看護過程の展開
  - (2) 問題志向型システムに基づいた看護の実践
  - (3) 他部門を交えた患者中心のカンファレンスの開催
  - (4) 退院時看護要約を活用し病棟・外来との継続看護に繋げる
- 2) 患者の安全と安心を最優先に考えた看護を提供する
  - (1) インシデント事例の検証による再発防止策の強化  
転倒・転落事例の減少を目指す
  - (2) 感染対策の維持強化
  - (3) 褥瘡予防の徹底
  - (4) 環境整備の徹底
- 3) 業務マニュアル等の整備
  - (1) 看護手順・各種マニュアルの整備と活用
  - (2) 各部署の業務手順の見直し
- 4) 病院機能評価審査の受審を視野に入れた業務改善を行う
- 5) 選ばれる病院を意識した身だしなみと接遇を行う
  - (1) 退院時患者アンケートによる問題点の把握と改善

## 2. 看護専門職としての資質の向上

- 1) 院内・院外研修への参加
- 2) 看護研究またはQC活動に取り組む
  - (1) 年度末の活動報告会で発表
  - (2) 院外発表を目標に研究を行う

## 3. 病院経営へ積極的に参画する

- 1) 看護必要度の評価と実績の維持
- 2) 適正な病床管理の実践
  - (1) 一日平均患者数103名を達成する
  - (2) 平均在院日数を意識した退院調整
- 3) 看護職員の確保
- 4) 労働環境の調整
- 5) 職員同士のコミュニケーションの活性化

## 平成28年度 外来目標・評価

看護部の目標	外来の目標	評価
<p>1. 看護の質の向上を行う</p> <p>1) 科学的根拠に基づいた看護の実践            (1)患者を中心と考えた看護過程の展開            (2)問題志向型システムに基づいた看護の実践            (3)他部門を交えた患者中心のカンファレンスの開催            (4)退院時看護要約を活用し病棟・外来との継続看護に繋げる</p> <p>2) 患者の安全と安心を最優先に考えた看護を提供する            (1)インシデント事例による再発防止策の強化            転倒・転落事例の減少を目指す            (2)感染対策の維持強化            (3)褥瘡予防の徹底            (4)環境整備の徹底</p> <p>3) 業務マニュアル等の整備</p> <p>4) 病院機能評価審査の受審を視野に入れた業務改善を行う</p> <p>5) 選ばれる病院を意識した身だしなみと接遇を行う</p> <p>(1)退院時患者アンケートによる問題点の把握と改善</p>	<p>1. 笑顔で対応できている。            1) 20%も見れていない。            今後退院時看護要約と退院時連絡表を同時に受領できないか、次年度の検討課題とし退院時看護要約を活用する。            (3)看護に活かすようにする。</p> <p>2) (1)インシデント発生時に速やかにカンファレンスが行えていないので少人数でも行い、検証し再発防止に努め報告をタイムリーに行なうとする。            (2)まだ100%の実施ではないので自分の身を守ることを考え徹底する。            相談室がなくなり、新たに点滴室を改修し感染症待機部屋を確保した。            (4)一部整理したが今後も整理整頓していく。            採血室の導線を改善した。            救急外来のカートがないので整理困難なので購入が必要。</p> <p>4) 環境整備・接遇・業務の見直しを検討した。</p> <p>5) 特に言葉づかしに気をつけ対応することを心がけて接する。</p>	<p>1.</p> <p>1. 笑顔で対応できている。            1) 20%も見れていない。            今後退院時看護要約と退院時連絡表を同時に受領できないか、次年度の検討課題とし退院時看護要約を活用する。            (3)看護に活かすようにする。</p> <p>2.</p> <p>2.</p> <p>2. 時短パートの方が多いが、院内・外研修参加者が、            参加できなかつた職員に伝達し情報を共有する。            (1)年度末の活動報告会で発表            (2)院外発表を目標に研究を行う</p>

<p>3. 病院経営へ積極的に参画する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護必要度の評価と実績の維持</li> <li>2) 適正な病床管理の実践           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)一日平均患者数103名を達成する</li> <li>(2)平均在院日数を意識した退院調整</li> </ol> </li> <li>3) 看護職員の確保</li> <li>4) 労働環境の調整</li> <li>5) 職員同士のコミュニケーションの活性化</li> </ol>	<p>3.</p> <p>業務改善を行い待ち時間の少ない外来運営ができるようにし1日100名の外来患者目標も目指し、超過勤務の減少にも繋げる。</p> <p>(1)パンフレットを渡し待ち時間に見てもらうなどの工夫を考える。</p> <p>曜日により100名を超えている日もあるが少ない日もあり今後少ない日の原因を考えて改善する事が今後の課題である。</p> <p>4) 超過勤務の増加は昨年と比較し増加していない。</p>
--	---

## 平成28年度 中材・手術室 目標・評価

看護部の目標	中材・手術室の目標	評価
<p>1. 看護の質の向上を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科学的根拠に基づいた看護の実践           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)患者を中心と考えた看護過程の展開</li> <li>(2)問題志向型システムに基づいた看護の実践</li> <li>(3)他部門を交えた患者中心のカンファレンスの開催</li> <li>(4)退院時看護要約を活用し病棟・外来との継続看護に繋げる</li> </ol> </li> <li>2) 患者の安全と安心を最優先に考えた看護を提供する           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)インシデントによる再発防止策の強化</li> <li>(2)転倒・転落事例の減少を目指す</li> <li>(3)感染対策の維持強化</li> <li>(4)褥瘡予防の徹底</li> <li>(5)環境整備の徹底</li> </ol> </li> <li>3)業務マニュアル等の整備           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)看護手順・各種マニュアルの整備と活用</li> <li>(2)各部署の業務手順の見直し</li> </ol> </li> <li>4)病院機能評価審査の受審を視野に入れた業務改善を行う</li> <li>5)選ばれる病院を意識した身だしなみと接遇を行う           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)退院時患者アンケートによる問題点の把握と改善</li> <li>(2)看護師が第2種滅菌技師を取得した。</li> </ol> </li> </ol>	<p>1.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者・家族が安心して手術に望める環境づくりと、看護の提供に努める</li> <li>2)術前訪問で得た情報から看護計画を立案し術中・術後の看護に繋げる。</li> <li>3)退院時看護要約を活用し病棟・外来との継続看護に繋げる</li> <li>4)患者の安全と安心を最優先に考えた看護を提供する           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)手術終了後にカンファレンスを行い、インシデントなどの検証また、防止策について話し合う。</li> <li>(2)手術室内の環境整備に重点を置く。</li> <li>(3)塵埃の除去、汚染箇所の消毒。</li> <li>(4)清潔操作の徹底。</li> </ol> </li> <li>5)看護手順見直し、修正、追加。</li> </ol> <p>2.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) (1)(2)スタッフが同じ視点で看護できるように術中記録ハンドと標準看護計画を作成した。</li> <li>2)予定手術についてほぼ100%の術前・術後訪問を行っている。</li> <li>3)乳癌手術の術前に執刀医とカンファレンスを行い、周手術期看護に繋げた。</li> <li>4) (1)カンファレンスを行い、振り返りを行い改善策を話し合い次の手術に活かしている。</li> <li>5) (2)スタッフ全員が清潔操作に気をつけ行動出来ている。手術室清浄度測定を行い、良好な結果が得られており、今後も手術室クリーンルームの清浄度を維持するよう環境整備を行っていく。</li> </ol> <p>3.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)看護室前室の物品を5階に移動し前室を次の手術器械を準備する場所の確保ができた。</li> <li>2)器械出し介助手順の追加、手順の作成を継続している。</li> <li>3)機能評価に向け、中材の清潔不潔の導線の確保</li> <li>4)手術清浄度測定を行った。</li> <li>5)第一印象を大切にし接するように心がけて訪問していることを今後も継続していく。</li> </ol>	<p>1.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) (1)(2)スタッフが同じ視点で看護できるように術中記録ハンドと標準看護計画を作成した。</li> <li>2)予定手術についてほぼ100%の術前・術後訪問を行っている。</li> <li>3)乳癌手術の術前に執刀医とカンファレンスを行い、周手術期看護に繋げた。</li> <li>4) (1)カンファレンスを行い、振り返りを行い改善策を話し合い次の手術に活かしている。</li> <li>5) (2)スタッフ全員が清潔操作に気をつけ行動出来ている。手術室清浄度測定を行い、良好な結果が得られており、今後も手術室クリーンルームの清浄度を維持するよう環境整備を行っていく。</li> </ol> <p>2.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)メカ一からの器械等の勉強会は行えている。</li> <li>2)手術室独自の勉強会は行えていないので手術後の振り返りの時間に少しずつ勉強会を開くようにする。</li> <li>3)看護助手2名、看護助手1名が院外研修に参加した。</li> <li>4)看護助手が第2種滅菌技師を取得した。</li> </ol>
<p>2. 看護専門職としての資質の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)院内・院外研修への参加</li> <li>2)看護研究またはQC活動に取り組む           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)年度末の活動報告会で発表</li> <li>(2)院外発表を目標に研究を行う</li> </ol> </li> </ol>	<p>2.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)手術室看護師としての専門知識・技術を高める。</li> <li>2)手術室での勉強会を開催しレベルアップを図る。</li> <li>3)院内・院外研修に参加し新しい情報を得、看護に活かす</li> <li>4)第一印象を大切にし接するように心がけて訪問していることを今後も継続していく。</li> </ol>	<p>2.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)メカ一からの器械等の勉強会は行えている。</li> <li>2)手術室独自の勉強会は行えていないので手術後の振り返りの時間に少しずつ勉強会を開くようにする。</li> <li>3)看護助手2名、看護助手1名が院外研修に参加した。</li> <li>4)看護助手が第2種滅菌技師を取得した。</li> </ol>

3. 病院経営へ積極的に参画する
- 1) 看護必要度の評価と実績の維持
  - 2) 適正な病床管理の実践
    - (1)一日平均患者数103名を達成する
    - (2)平均在院日数を意識した退院調整
  - 3) 看護職員の確保
  - 4) 労働環境の調整
  - 5) 職員同士のコミュニケーションの活性化

- 3.
- ダブルチェックを行いコスト漏れをなくす
  - 手術点数にも目を向け意識する
  - 手術と手術の間の準備をスムーズに行い、時間短縮を目指す

コスト漏れを防げるので今後もチェックを継続する  
手術間の準備はスムーズに行えておりトラブルなく時間  
短縮できている。  
手術件数昨年度2月末日までと比較し41件の増加で  
昨年度より超過勤務は増えている、人員増加が必要。

## 平成28年度 3階病棟 目標・評価

看護部の目標	3階病棟の目標	評価
<p>1. 看護の質の向上を行う</p> <p>1) 科学的根拠に基づいた看護の実践</p> <p>(1)患者を中心と考えた看護過程の展開</p> <p>(2)問題志向型システムに基づいた看護の実践</p> <p>(3)他部門を交えた患者中心のカンファレンスの開催</p> <p>(4)退院時看護要約を活用し病棟・外来との継続看護に繋げる。</p> <p>2) 患者の安全と安心を最優先に考えた看護を提供する</p> <p>(1)インシデント事例による再発防止策の強化</p> <p>転倒・転落事例の減少を目指す</p> <p>(2)感染対策の維持強化</p> <p>(3)褥瘡予防の徹底</p> <p>(4)環境整備の徹底</p> <p>3) 業務マニュアル等の整備</p> <p>(1)看護手順・各種マニュアルの整備と活用</p> <p>(2)各部署の業務手順の見直し</p> <p>4) 病院機能評価審査の受審を視野に入れた業務改善を行う</p> <p>5) 選ばれる病院を意識した身だしなみと接遇を行う</p> <p>(1)退院時患者アンケートによる問題点の把握と改善</p> <p>(2)身だしなみ、接遇マナーチェック表の評価を80%にできる様にお互い注意して改善する。</p> <p>(3)褥瘡発生の予防は、褥瘡チーム・NSTと共に活動し、予防に努める。踵部の褥瘡発生が多くみられた。</p> <p>(4)看護助手が日々頑張ってくれている。協力して徹底していく。</p> <p>(5)見出しちなみに接遇の評価については、業務中の私語については、できていない。</p> <p>注意声掛けするように心がける。</p>	<p>1.</p> <p>1) (1)入院時には個別性を考えた看護計画を立案し1週間後に再評価を行う。</p> <p>(3)内科外科カンファレンスの患者情報のPC入力を充実する</p> <p>(4)退院サマリーを外来看護師と情報を共有し、継続看護に繋げる。</p> <p>2)</p> <p>(1)転倒・転落事故が起ころる以前の予防についてのカンファレンスを充実させ、受け持ち看護師が啓発する。</p> <p>転倒、転落事故があれば早急にカンファレンスをおこない看護計画を見直す。</p> <p>(3)整形患者(大腿骨頸部骨折)の褥瘡発生をさせない。</p> <p>4)</p> <p>4) 入院診療計画書を早期に記入し100%患者に渡す。</p> <p>(2)各部署の業務手順の見直し</p> <p>4)</p> <p>4) 退院時患者アンケートによる問題点の把握と改善</p> <p>(1)身だしなみ、接遇マナーチェック表の評価を80%にできる様にお互い注意して改善する。</p> <p>(4)見出しちなみに接遇の評価については100%作成し手渡しきている。</p> <p>(5)見出しちなみに接遇の評価については、業務中の私語については、できていない。</p> <p>注意声掛けするように心がける。</p>	<p>1. 看護の質を高めるための取り組みを強化する</p> <p>1) (1)看護計画の立案は必ず行っているが標準看護計画であって個別性を持った計画にする様心がける必要がある。</p> <p>1週間後の評価を徹底していく。</p> <p>(3)ハビリ主催のカンファレンスに参加しているか看護師主導のカンファレンスが持てるようにしたい。PCへの入力を徹底していく。</p> <p>(4)退院看護要約の作成は100%できているが縦書き看護につなげられているかは検討の必要があり、外来・他部門との調整も必要と思われる。</p> <p>(1)転倒・転落のリスクの高い患者にたいしては、早期にカンファレンスを持ち予防に努める。アクシデントが2件発生し、術後のADLアップに伴う看護計画の見直しを行う様にし、歩行時の靴にも注意する様にした。</p> <p>(2)便CD陽性の発生があつたが、早期に検査をする事で爆発的な発生は予防できた。インフルエンザ感染はなかつた。引き続き、感染予防に注意していく。</p> <p>(3)褥瘡発生の予防は、褥瘡チーム・NSTと共に活動し、予防に努める。踵部の褥瘡発生が多くみられた。</p> <p>4) 看護助手が日々頑張ってくれている。協力して徹底していく。</p> <p>(4)入院計画書については100%作成し手渡しきている。</p> <p>(5)見出しちなみに接遇の評価については、業務中の私語については、できていない。</p> <p>注意声掛けするように心がける。</p>

<p>2. 看護専門職としての資質の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 院内・院外研修への参加</li> <li>2) 看護研究またはQC活動に取り組む             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)年度末の活動報告会で発表</li> <li>(2)院外発表を目標に研究を行う</li> </ol> </li> </ol>	<p>2.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各個人院内・院外研修への参加を年1回は参加する。</li> <li>2) 業務改善を行いながら、日常業務に活かし、活動報告に繋げるようまとめる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(2)活動報告に向けて準備完了する。</li> </ol> </li> </ol> <p>3.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護必要度に沿った看護記録の徹底と記入漏れをなくす。</li> <li>2) コスト面も視野に入れたベットコントロールをする。</li> </ol> <p>病棟目標として、1日34名以上の入院患者の維持を目指す。</p> <p>回りへ病棟加算2にむけて日常生活機能評価表10点以上上の患者情報を提供する。</p> <p>問題となる業務改善をし超過勤務を月平均1人あたり10時間以下になるよう努めます。</p>
---	--

## 平成28年度 4階病棟 目標・評価

看護部の目標	4階病棟の目標	評価
<p>1. 看護の質の向上を行う</p> <p>1) 科学的根拠に基づいた看護の実践            (1)患者を中心とした看護過程の展開            (2)問題志向型システムに基づいた看護の実践            (3)他部門を交えた患者中心のカンファレンスの開催            (4)退院時看護要約を活用し病棟・外来との継続看護に繋げる</p> <p>2) 患者の安全と安心を最優先に考えた看護を提供する            (1)インシデント事例による再発防止策の強化            転倒・転落事例の減少を目指す            (2)感染対策の維持強化            (3)褥瘡予防の徹底            (4)環境整備の徹底</p> <p>3) 業務マニュアル等の整備            (1)看護手順・各種マニュアルの整備と活用            (2)各部署の業務手順の見直し</p> <p>4) 病院機能評価審査の受審を視野に入れた業務改善を行う</p> <p>5) 選ばれる病院を意識した身だしなみと接遇を行う            (1)退院時患者アンケートによる問題点の把握と改善</p>	<p>1. 看護の質の向上を行う</p> <p>1) 科学的根拠に基づいた看護の実践            (1)転棟時・状態変更時・転倒時の看護計画の追加・修正を速やかに行う。            (3)他部門を交えた患者中心のカンファレンスを開催する            (4)退院時看護要約を活用し病棟・外来との継続看護に繋げる。又、入所時・転院時も活用する。</p> <p>2) 患者の安全と安心を最優先に考えた看護を提供する            (1)転倒・転落の予測が出来、防止できる計画立案。            インシデント発生時は、速やかな報告が出来る。            カンファレンスを開催し、看護計画の立案修正。            (2)標準予防策の徹底厳守。            (3)長期ベッド上臥床(特に大腿骨頸部骨折)の患者の褥瘡を発生させない。            (4)業務マニュアル等の整備            (2)業務手順の見直し(時間内就業を実施出来る)            (2)業務手順の見直し(時間内就業を実施出来る)</p> <p>3) 業務マニュアル等の整備            (1)看護研究またはQC活動に取り組む。            (1)活動報告会で発表できるように早期から取り組む。            (2)発表した内容を、院外発表できるように取り組む</p> <p>4) 必要度に応じた看護記録が出来ている。</p> <p>5) 選ばれる病院を意識した身だしなみと接遇を行う            (1)退院時に満足して頂ける看護を提供する。</p>	<p>1. (1)回復期用の標準看護計画を作成し転入時に修正出来ているが長期になると修正出来ていない事が多い。            (3)平日のカンファレンスはPT参加して情報共有できた            今後は転入時に多職種の合同カンファレンスを開催し退院に向けての目標を共有する事が今後の課題である。            (4)退院時サマリーは全員記入しているが、継続看護に繋げられているのかは不明である。</p> <p>2. (1)インシデント内容転倒13件薬剤16件検査6件            チューブ類4件早急にカンファレンス開催し対策改善する            (2)手指消毒の回数は12月のインフルエンザ感覚時より増加した。引き続き院内感染防止に努める。            (3)褥瘡発生者あつたが、早期に対応し治癒できた。            (3) (2)クラークさんの採用に伴い、業務を見直し、超過勤務は減少傾向である。(過去3ヶ月 平均6.5時間)</p> <p>4) 看護必要度は9月から転入と退院時のみとなりほぼ評価に応じた記録が出来ている。</p> <p>5) 身だしなみ、接遇は今後も気を付ける。</p>
<p>2. 看護専門職としての資質の向上</p> <p>1) 院内・院外研修への参加            2) 看護研究またはQC活動に取り組む            (1)年度末の活動報告会で発表            (2)院外発表を目標に研究を行う</p>	<p>2. 看護専門職としての資質の向上</p> <p>1) 院内・院外研修への参加を積極的に取り組む。            2) 看護研究またはQC活動に取り組む            (1)活動報告会で発表できるように早期から取り組む。            (2)(1)で発表した内容を、院外発表できるように取り組み中。</p>	<p>2. 院内研修は日勤者は出来るだけ参加している。            1) 院外研修は年内一人1回は参加できた。            (看護師正職員全員、不参加者3名非常勤者)</p> <p>2) インフルエンザ感染対策について発表出来るように取り組み中。</p>

<p>3. 病院経営へ積極的に参画する</p> <p>1) 看護必要度の評価と実績の維持 適正な病床管理の実践 (1)一日平均患者数103名を達成する (2)平均在院日数を意識した退院調整</p> <p>2) 看護職員の確保</p> <p>3) 労働環境の調整</p> <p>4) 職員同士のコミュニケーションの活性化</p>	<p>3. 病院経営へ積極的に参画する</p> <p>1) 看護必要度に沿った記録の充実。(記入漏れをなくす)</p> <p>2) 適正な病床管理の実践 (1)46名満床維持を目指す。 (2)他部署と情報共有し、退院調整を行つ。</p> <p>3) 看護職員の確保</p> <p>4) 労働環境の調整</p> <p>5) 職員同士のコミュニケーションの活性化</p>
---	---

## 平成28年度 5階病棟 目標・評価

看護部の目標	5階病棟の目標	評価
<p>1. 看護の質の向上を行う</p> <p>1) 科学的根拠に基づいた看護の実践</p> <p>(1)患者を中心とした看護過程の展開</p> <p>(2)問題志向型システムに基づいた看護の実践</p> <p>(3)他部門を交えた患者を中心のカンファレンスの開催</p> <p>(4)退院時看護要約を活用し病棟・外来との継続看護に繋げる</p> <p>2) 患者の安全と安心を最優先に考えた看護を提供する</p> <p>(1)インシデント事例による再発防止策の強化</p> <p>転倒・転落事例の減少を目指す</p> <p>(2)感染対策の維持強化</p> <p>(3)褥瘡予防の徹底</p> <p>(4)環境整備の徹底</p> <p>3) 業務マニュアル等の整備</p> <p>(1)看護手順・各種マニュアルの整備と活用</p> <p>(2)各部署の業務手順の見直し</p> <p>4) 病院機能評価審査の受審を行った業務改善を行う</p> <p>5) 選ばれる病院を意識した身だしなみと接遇を行う</p> <p>(1)退院時患者アンケートによる問題点の把握と改善</p> <p>(2)問題の質の向上を行う</p> <p>1) 科学的根拠に基づいた看護の実践</p> <p>(1)患者の基本情報の記入ができ サマリー等が活用できる</p> <p>(2)問題の明確化 初期計画が立案できる</p> <p>(3)受持ち看護師が責任を持って変化の生じた時に計画の変更ができる 1週間毎に定期的に計画の評価を行う</p> <p>(4)患者カンファレンスを定着させる(朝申し送り後に提案し量にカンファレンスを行う)</p> <p>2) 患者の安全と安心を最優先に考えた看護を提供する</p> <p>(1)インシデント発生時は速やかにカンファレンスを行う</p> <p>再発防止について積極的に意見交換を行う</p> <p>スコアシート 計画表を活用できる</p> <p>(2)エプロンを適切に使用でき 手指消毒をタイミング良く行える</p> <p>(3)褥瘡対策に関する診療計画書から早期に予防のための計画が立案できる</p> <p>(4)環境整備を毎日行う(ボータブルトイレを含む)</p> <p>3) 業務マニュアル等の整備</p> <p>(1)退院時患者アンケートによる問題点の把握し、カンファレンスを行い 改善できる</p> <p>(2)各部署の業務手順の見直し</p> <p>4) 病院機能評価審査の受審を行った業務改善を行う</p> <p>5) 選ばれる病院を意識した身だしなみと接遇を行う</p> <p>(1)退院アンケートから問題点を把握し、カンファレンスを行い 改善できる</p>	<p>1.</p> <p>1) 継続看護に活かすためのサマリーの作成を念頭に置いて指導・確認しているが、概ね問題なく作成できている。次年度に継続とする。</p> <p>初期計画は立案できているが、定期的な評価・修正はできていない。全体の課題であり、次年度に看護部として取り組む。変化が生じた際の対応は極端に遅れできている。</p> <p>患者カンファレンスは(インシデントカンファレンスを含んで)できているので、定着できていると考える。継続とする。</p> <p>2) (1)行えている。継続とする。</p> <p>(2)標準予防策は意識的に行えていると考えるが、手指消毒に関してはICTのデータからできているとはいえない。</p> <p>2回目の強化月間では取り組み効果あり。次年度も継続とする。</p> <p>(3)エアーマットの準備など、入院時から意識して対応している。褥瘡予防や褥瘡治癒に関して積極的に関わっている。継続とする。</p> <p>(4)前期は達成できた(ボータブルトイレは週1回)。後期は看護助手が1名となつたため3回/週程度(ボータブルトイレは汚れを見つけた場合)。看護師は個人差はあるが最低でも汚れや乱雑さが目立つ場合は行っている(ボータブルトイレは日勤担当看護師が清掃している)。継続とする。</p> <p>3) 研修会には業務の許す限り参加している。残念ながら勉強会は開催できなかった。</p> <p>4) 業務分担表に患者氏名を書くなど、気が付いたことは改善している。病院機能評価に直接関連はしないが、退院支援への取り組みや細かな業務改善も行えている。継続とする</p> <p>5) (1)退院アンケートで、問題と思うことは職員にフィードバックしているが、当病棟で看護で改善しなければならない大き</p>	

		な問題点はおもむねなかった。継続とする。
2. 看護専門職としての資質の向上	2. 看護専門職としての資質の向上	2. 看護専門職としての資質の向上
1) 院内・院外研修への参加 2) 看護研究またはQC活動に取り組む (1)年度末の活動報告会で発表 (2)院外発表を目標に研究を行う	1) 院内・院外研修への参加 院内・院外研修へ積極的に参加する 研修に参加した人の報告の場を持つ(星のカンファレンスの時間) 2) 看護研究またはQC活動に取り組む (1)研究的視点での業務改善を行う (2)研究的視点での業務改善を行なう では退院支援への取り組みについて発表予定。	1) 家庭との両立を考慮すると、個人が積極的に参加できている状況ではないが、少なくとも委員等の役割で参加が必要な研修には参加できている。マンパワー・スタッフの構成で研修に参加しづらい現状があるため、人員配置などの配慮を継続してお願いする。情報の共有は最低限できている 2) (1)研究的視点での業務改善はできない。成果発表会では退院支援への取り組みについて発表予定。
3. 病院経営へ積極的に参画する	3. 病院経営へ積極的に参画する	3. 病院経営へ積極的に参画する
1) 看護必要度の評価と実績の維持 適正な病床管理の実践 (1)一日平均患者数103名を達成する (2)平均在院日数を意識した退院調整	1) 看護必要度の評価は日々の業務で継続して行っている 研修に参加し、情報の交換・確認を行う 2) 適正な病床管理の実践 (1)5階患者数23名を目指す (2)患者さんに退院を意識づける	1) 看護必要度の評価は日々の業務で継続して行っている が、記録としては看護部としての課題として取り組む必要がある。 2) (1)11月までの10ヶ月間のデータは23.2名の実績で目標を達成している。継続とする。 (2)入院診療計画書の入院期間を基準に、その後の治療や療養・リハビリ等の推移を確認しつつ、患者とのコミュニケーションの中で退院に向けての意識付けを行っている。患者者の希望と現実との乖離がある場合を除けば、概ね問題なく意識づけられていると考える。

## 平成28年度 看護部活動総括

月	主な活動	備考
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和歌山県病院協会立看護専門学校 入学式出席 (4/8)</li> <li>○和歌山県立熊野高等学校入学式 出席 (4/11)</li> <li>○和歌山県病院協会立看護専門学校 就職説明会参加 (4/27)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○採用：看護師5名、看護助手1名</li> <li>○退職：看護師1名、准看護師1名 看護助手1名</li> <li>○喀痰吸引デモ使用</li> <li>○介護福祉士登録</li> <li>寺前恵理・曾根千代子</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和歌山県立高等看護学校 就職説明会参加 (5/2)</li> <li>○看護の日 健康相談 (5/14)</li> <li>○感染合同会議 紀南病院にて (5/9)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○看護協会入会8名</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和歌山県立なぎ看護学校 就職説明会 (6/3)</li> <li>○和歌山県看護協会総会参加 (6/18)</li> <li>○病院機能評価会議 (6/24)</li> <li>○ヤーヤー祭り会議 (6/29)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○採用：看護師1名、准看護師1名</li> <li>○退職：看護師1名</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○辞令 後藤文子主任から看護師長に 小守一未看護主任となる</li> <li>○病院機能評価会議 (7/27)</li> <li>○ふれあい看護体験2名実施 (7/28)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○退職：准看護師1名</li> <li>○各病室懐中電灯点検</li> <li>○各部署温度湿度計設置</li> <li>○タッチコールセンター1台購入</li> <li>○氷枕10個購入</li> <li>○環境クロス導入</li> <li>○トイレ汚物入れ交換</li> <li>○看護助手補助者</li> <li>○ユニホーム注文</li> <li>○メロリンガーゼ導入</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヤーヤー祭り参加 (8/8)</li> <li>○病院フェア会議</li> <li>○NST活動開始 (8/12)</li> <li>○和歌山県業務研究会 (8/25・8/26)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○採用：看護師1名</li> <li>○退職：看護師2名、看護補助者1名</li> <li>○深爪予防爪切り購入</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護福祉士会・看護助手会発足</li> <li>○病院機能評価会議 (9/6)</li> <li>○病院フェア会議 (9/12)</li> <li>○ソフトボール大会 (9/18)</li> <li>○病室カーテン見積もり (9/23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○採用：看護師1名</li> <li>○退職：看護師1名、看護補助者1名 看護助手1名</li> <li>○吸引ポット購入11台購入</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県立熊野高等学校看護科 宣誓式 出席</li> <li>○病院フェア会議 (10/17)</li> <li>○出張健診 看護師4名 看護助手2名応援</li> <li>○学校訪問 熊野高等学校看護科・普通科 串本高校 なぎ看護学校 近畿大学付属高等学校・新宮高等学校 野上厚生総合病院付属看護専門学校</li> </ul>	

11月	○防火訓練 (11/21) ○病院フェア (11/26)	○6階に洗濯機1台 乾燥機1台
12月	○和歌山県看護協会田辺地区支部老人看護月間健康相談 (12/3) ○田辺保健所立ち入り検査 (12/13) ○病院フェア反省会 ○田辺保健所退院調整会議 紀南病院 (12/19)	
1月	○和歌山県看護協会ワークライフバランス会議 (1/22) ○新年会 (1/23)	○採用：看護師1名 ○看護補助者1/10～2月末 ○ニチイ派遣応援2名 ○男子更衣室移動
2月	○B型ワクチン接種終了 (2/17)	○採用：看護師1名、准看護師1名 看護補助者1名 ○退職：看護師1名 ○ベットサイドテーブル10台購入
3月	○病院 報告会 40名参加 (3/11) ○インフルエンザアウトブレイクによる臨時感染対策委員会開催 (3/21・3/24)	○採用：看護師1名 ○退職：看護師2名

平成28年度 院内研修会参加状況

月 日	研 修 会 名	医局	リハ科	検査科	薬局	放林線 内科	栄養課	事務	看護部	その他の 活動	合計
4月26日	平成28年度重症度、医療・看護必要度研修								23	23	担当:後藤
4月28日	平成28年度重症度、医療・看護必要度研修								18	18	担当:山本み
5月31日	『病院経営の視点から考える退院調整』								11	11	院外講師:上山社会福祉士
6月23日	伝達講習『認知症の理解ヒケア』	4						3	21	28	担当:山本み、吉本
7月 (3階、4階、5階各病棟のカンファレンス時間で30分)	倫理研修『看護師の倫理綱領』								30	30	講師:山本友
7月 (4階病棟のカンファレンス時間で30分)	倫理研修『介護者の倫理基準』								5	5	講師:山本友
8月23日	『リンクドレナージの基本』	6						1	21	28	院外講師
9月5日	平成28年度重症度、医療・看護必要度研修								16	16	講師:内谷
9月30日	平成28年度重症度、医療・看護必要度研修								20	20	担当:山本み
10月4日	管理者研修『目標管理の基本と必要性』		1	1			3	6	1	12	講師:石田総務課長
10月18日	接遇研修『医療現場の接遇研修』	2	10	1	3	2	5	6	31	6	院外講師
11月14日	接遇研修『医療現場の接遇研修』	1	7	3	1	1	6	8	28	8	院外講師
3月29日	診療報酬 処置伝票の考え方							1	8	9	講師:坂本医事課主任
	計	3	27	4	5	4	11	22	238	15	329

※医療安全並びに感染対策に関する研修は各種委員会活動にて掲載

平成28年度 看護部 院外研修会参加状況

開催日	研修会名等	主催	開催場所	参加者
4月9日(土)	医療安全研修 弁護士の立場から	田辺医師会	ガーデンホテルハナヨ	山本友子
5月13日(金) 14日(土)	診療報酬算定要件研修 「認知症の理解とケア」	一般社団法人日本精神科看護協会	仁明会地域精神医療センタ ー	山本みちる・吉本勝美
6月18日(土)	医療安全推進研修会	和歌山県病院協会	和歌山県J Aビル2階	山本友子
6月24日(金)	第91回日本医療機器学会大会	一般社団法人日本医療機器学会	大阪国際会議場	松本澄人・山本友子
6月25日(土)	第92回日本医療機器学会大会	日本医療機器学会	大阪国際会議場	松本澄人・山本友子・植木進・山崎三恵
7月2日(土)	和歌山県看護協会田辺支部 第1回研修会「いまさら聞けないそんなあなたのBLS研修」	和歌山県看護協会	南和歌山医療センター 地域医療研修センター	山本みちる・澤岡佳子・西田あい・絵名由美子・庄司智恵子・湯川仁美・西田翔・田尾小百合・中野麻佑
7月2日(土)	医療安全倫理モラル研修会2016	国際医療リスクマネジメント学 会	東京大学法文2号館	山田真記子・山本友子
7月16日(土)	「マグロ船流」 リーダーシップの磨き方	公益社団法人和歌山県 看護協会	看護研修センター	鈴木正代・谷津也子・吉川とよ子
7月20日(水) ~22日(金)	医療安全基礎講座 2016-医療安全の基礎知識-	国際医療リスクマネジメント学 会	東京大学伊藤国際研修学術 センター	山本友子
7月23日(土)	「看護研究を楽しく始めよう」	公益社団法人和歌山県 看護協会	看護研修センター	山下仁美・中野麻佑
7月24日(日)	'16重症度、医療・看護必要度評価 者院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント 学会 S-QUE研究会	T K Pガーテンシティ大阪梅田	山本みちる・内谷万美子・鈴木富士子
7月30日(土)	第136回中材業務及び感染対策研 究会	中材業務及び感染対策 研究会	大阪国際会議場	山崎三恵
8月6日(土)	看護管理者が学ぶ幸せ交渉術	公益社団法人和歌山県 看護協会	看護研修センター	鈴木正代・山本みちる・後藤文子・内谷万美子
8月28日(日)	'16重症度、医療・看護必要度評価 者院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント 学会 S-QUE研究会	看護研修センター	後藤文子・小谷佳子
9月3日(土)	中材業務及び感染対策研究会 基 礎講座	中材業務及び感染対策 研究会	大阪市立大学医学部学舎4階	山崎三恵
9月10日(土)	外来でがん化学療法を受ける患者 の看護	公益社団法人和歌山県 看護協会	県立情報交流センタービッ グU	山本みちる・西田あい
9月17日(土)	より快適な移乗動作と介助	和歌山県地域介護普及 センター	県立情報交流センタービッ グU	寺前恵理・曾根千代子
9月24日(土)	第3回多職種間学際シンポジウム 医療安全とイフホームコンセント	一般社団法人 日本医 療安全学会	京都府立医科大学図書館ホール	山田真記子
9月24日(土)	看護記録の基本をマスターしよう	公益社団法人和歌山県 看護協会	看護研修センター	長谷川宏朗・後藤文子・内谷万美子・湯川仁美・山下仁美
9月28日(水) 29日(木)	診療報酬算定要件研修 「認知症の理解とケア」	一般社団法人日本精神 科看護協会	烏丸ビル	松場かおり・谷津也子・田中芳代子

10月1日(土)	第137回中材業務及び感染対策研究会	中材業務及び感染対策研究会	大阪国際会議場	山崎三恵
10月15日(土)	准看護師研修会 「安全な食事介助を行うために」	公益社団法人和歌山県看護協会	看護研修センター	東光美幸・森本麻奈美・奥野さち・甲斐高代
10月21日(金)	NST勉強会「急性期の栄養管理」	国立病院機構 南和歌山医療センター	南和歌山医療センター 地域医療研修センター	井上 節子
11月5日(土)	田辺地区支部第2回研修会 「当たり前の中にあった大切なものの」	和歌山県看護協会	南和歌山医療センター 地域医療研修センター	野田康子・山本由美・竹本真智子
11月12日(土)	診療報酬加算にかかる看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	公益社団法人和歌山県看護協会	看護研修センター	山本みちる・谷津也子・山本友子
12月3日(土)	チームで取り組む褥瘡対策・感染対策	メディカルケアサポートセミナー事務局	県民交流プラザ和歌山ピック愛大ホール	後藤文子・吉川とよ子・山本哲生・井上節子
12月11日(日)	第11回総会、講演会、調理実演「地域で支える嚥下障害」 1) 急性期から在宅迄 2) 食の連携を考える 「とろみ剤とゲル化剤の違い」	NPO法人和歌山口腔ケア&摂食・嚥下研究会	和歌山県和歌山市中央コミュニティセンター	松場かおり
1月21日(土)	第138回中材業務及び感染対策研究会	中材業務及び感染対策研究会	大阪国際会議場	山崎三恵
1月28日(土)	病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修	和歌山県委託事業：和歌山県看護協会	県立情報交流センターピックGU	山本みちる・鈴木富士子・庄司智恵子・内谷万美子・久保克子・海谷京子・石神明美
1月30日(月) 31日(火) 2月9日(木)	看護職員認知症対応能力向上研修 (和歌山県委託事業)	和歌山県委託事業：和歌山県看護協会	看護研修センター	小守一未
2月1日(水)	平成28年度医療安全管理フォローアップ研修及び交流会	和歌山県看護協会	看護研修センター	長谷川宏朗・後藤文子・松場かおり
2月18日(土)	平成28年度和歌山県看護研究会学会	和歌山県看護協会	看護研修センター	後藤文子・山本みちる・松場かおり・谷津也子・山田真記子

### ●スタッフ構成

看護師 1名  
 准看護師 3名  
 補助者 1名

### 『内視鏡室』

平成28年度内視鏡検査総件数は258件で、前年より2.6%の減少。  
 上部内視鏡検査件数が234件（内 経鼻内視鏡検査19件）、下部内視鏡件数が24件であった。上部内視鏡件数は前年より6件増加しているが、下部内視鏡件数は13件減少している。経鼻内視鏡件数も減少しており昨年同様に、鎮静剤を希望されることが多いことが考えられる。

		点数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
外科	上部	1,140	15	13	12	16	18	19	18	26	12	7	12	16	184
	(内 経鼻)	1,140	②	②	①	③	③	③	②	①	②		②	①	22
	下部	1,550		2		1	5	2	1	4	2		1	1	19
内科	上部	1,140	4	4	8	6	5	2	3		8	4	4	2	50
	(内 経鼻)	1,140	①	①	③		①		①						⑦
	下部	1,550	1	4											5
計		20	23	20	23	28	23	22	30	22	11	17	19	258	

### 『内視鏡洗浄器保守』

7月25日 内視鏡洗浄器 フィルタ交換  
 11月 9日 内視鏡洗浄器修理・点検

### 『内視鏡スコープ』

H29年1月 上部内視鏡スコープ G I F-H290に更新

### 『勉強会』

内視鏡ポリープ摘出マニュアル作成  
 11月 1日 大腸ポリペクトミー手順研修

## 《手術室》

### 整形外科手術件数

手術名	点数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人工股関節置換術	37,690	4	2	7	3	3	6	6	4	4	2	5	4	50
人工膝関節置換術	37,690	19	16	19	22	17	16	14	16	12	19	14	20	204
人工肩関節置換術	37,690							2	1			2	1	6
人工股関節再置換術	54,810			1								1	1	3
人工膝関節再置換術	54,810			1			2							3
内視鏡下椎間板摘出術	30,390					1								1
関節形成術	28,210													
下腿骨切り術	20,620													
切断術【下腿】	24,320													
尺骨神経移行術	23,360													
化膿性関節炎搔把	20,020													
人工骨頭置換術	19,500	1	1									1	3	
大腿・上腕骨頸部骨折	18,810	2	1	1		2	3	1	1	2	2	2		17
滑膜切除術	17,750			1				1						2
前腕・下腿骨骨折骨接合術	14,810	1	1	3				1			4	1		11
膝関節鼠摘出術	13,000											1	1	
腱剥離術	11,430													
腱縫合術	11,320							1						1
神経剥離術	10,900													
鎖骨・膝蓋骨・踵骨・手足指骨接合術	9,480						1		2	1				4
抜釘術【大腿・上腕など】	7,870		1				2					1		4
抜釘術【下腿・前腕】	5,200	1				1		3		1	1			7
その他		6		6	4	3	4	5	4	2		5	1	40
計		34	22	39	29	26	35	33	29	22	28	30	31	358

### 外科手術件数

手術名	点数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
腹会陰式直腸切斷術	77,120													
胃悪性腫瘍手術	12,010													
乳癌手術	21,500							1						1
結腸悪性腫瘍手術	16,460		1			1		1		1				4
総胆管空腸吻合術	8,880													
切断術【大腿部】	7,980								1					1
小腸切除術	15,940													
試験開腹術	5,500										1			1
イレウス	12,010													
胆囊摘出術	20,960													
腹腔鏡下胆囊摘出術	21,500							1						1
腹腔鏡下ドレナージ術	16,460													
CVポート留置術	10,800													
虫垂切除術【膿瘍伴う】	8,880								1					1
人工肛門造設術	7,980										1			1
ヘルニア手術【鼠径】	6,000		1	1										2
痔核根治術											1			1
その他			2			1	1				1			5
計			4	1		2	2	4		1	3	1		18

平成28年度手術総件数は375件で、前年度より約11%の増加。外科18件、整形外科357件（内 人工関節置換術266件）であり、人工関節手術は前年度に比べ約22.6%増加した。また、6月15日より非常勤 整形外科医2名が水曜日（隔週交代）に手術助手として勤務してくれることになり人工関節手術に対応してくれている。

3月15日からインフルエンザアウトブレイクがあり、17日より病棟閉鎖としたため、人工関節予定手術患者6例が延期することとなり、患者さまにはご迷惑をおかけしたが金本医師、麻酔科医、手術室スタッフの協力があり4月中に延期となった手術も無事終える事ができた。

人工股関節手術時の上肢の固定を患者にとってより安全で安楽な固定方法に改善した。  
今後とも、患者にとって安全で安楽な方法を考え改善していきます。

#### <業務改善>

人工股関節ドレープセットの内容を変更。使用する手術器械の見直しを行い器械台への展開の数を減らすことにより、器械台ドレープの減数と準備の時間の短縮に繋がった。

- 7月5日 O P室手洗い装置フィルタ交換
- 8月4日 E O G滅菌器点検
- 8月8日 腹腔鏡機器点検
- 8月23日 滅菌バックシーラー整備・点検
- 8月25日 E O G作業環境測定
- 9月10日 O P室清浄度測定（O p室と前室）結果は100クラスの清浄度と
- 9月13日 第1種圧力容器性能検査を受け整備点検。

#### 《中材》

中材補助者 第2種滅菌技師取得

## 術式別算定件数 外来

手術名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
關節脫臼非觀血的整復術(小兒肘內障)		1		1		1				1			4
關節脫臼非觀血的整復術(肩)					1								1
關節脫臼非觀血的整復術(指)		1											1
非觀血的關節授動術(指)											1		1
非觀血的關節授動術(手)											1		1
陷入爪手術								1	1				2
腱鞘切開術				1	1		2			3			7
腱縫合術(切創等の創傷)(創傷処理)											1		1
骨折非觀血的整復術(前腕)					2		2			1			5
骨折非觀血的整復術(手)	2						1						3
骨折非觀血的整復術(鎖骨)								1					1
骨折經皮鋼線刺入固定術(指)		1		2									3
觀血的關節固定術(指)	1												1
骨内異物(挿入物)除去術		1									1		2
骨内異物除去術(足)										1			1
爪甲除去術		1	1	1		1	3	2		2	1	2	14
創傷処理	11	15	12	12	16	7	8	11	7	10	4	8	121
小兒創傷処理				1	2	1			1		1		6
乳腺腫瘍摘出術					1								1
皮下腫瘍摘出術	1	1			1	1	1			1			6
皮膚腫瘍摘出術					1			1					2
皮膚切開術	3	3	1	1	1	1	4	2		1		2	19
神經幹内注射	1	1		1	3						3		9
難治性骨折超音波治療法			1										1
合計	19	25	15	20	29	12	21	18	9	17	14	14	213

## 術式別算定件数 入院

手術名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
頸関節脱臼非観血的整復術	2												2
観血的関節授動術(膝)						2							2
関節脱臼非観血的整復術(股)		2	1					1					4
関節脱臼観血的整復術(股)								1					1
関節滑膜切除術(膝)			1				1				1		3
陷入爪手術										1			1
化膿性又は結核性関節炎搔爬術(股)				1									1
結腸切除術(全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術)		1			1				1				3
腱鞘切開術			1						1				2
腱縫合術								1					1
腱切離・切除術(関節鏡下によるものを含む)			1										1
骨折非観血的整復術(大腿)					1					2			3
骨折観血的手術(前腕)	1						1			1	1		4
骨折観血的手術(手(舟状骨を除く))								1					1
骨折観血的手術(大腿)	3	1	1		2	2	1	2	2	2			16
骨折観血的手術(下腿)		1	2							1			4
骨折観血的手術(膝蓋骨)						1							1
骨折観血的手術(足)								1	1				2
骨折観血的手術(その他)	1												1
骨内異物除去術(上腕)		1											1
骨内異物除去術(前腕)	1				1		1	1	1				5
骨内異物除去術(大腿)						2						2	4
骨内異物除去術(下腿)										1			1
骨内異物除去術(足)					1		1	1					3
骨内異物除去術(膝蓋骨)	1						2					1	4
骨内異物除去術(鎖骨)							1						1
骨内異物除去術(指)									1				1
骨内異物除去術(その他)		1											1
骨移植術(軟骨移植術を含む) (自家骨移植)						4	3	3	4	1	2	2	19
骨移植術(軟骨移植術を含む) (同種骨移植) (非生体)												1	1
股関節内転筋切離術					1								1
四肢切断術(大腿)							1						1
手根管開放手術	2		3			2	1				1		9
人工関節置換術(膝)	19	16	18	22	17	15	14	16	12	19	14	19	201

人工関節置換術(股)	4	2	7	3	3	7	6	4	4	2	6	4	52
人工関節置換術(肩)							2	1			2		5
人工関節再置換術(膝)			1									1	2
人工関節再置換術(股)			1								1	1	3
人工骨頭挿入術(股)	1	1										1	3
人工肛門造設術										1			1
創傷処理		2		1		1				1			5
痔瘻根治手術(簡単なもの)		1											1
胆囊摘出術		1											1
虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴うもの)							1						1
デブリードマン	1	2			1	1				1			6
内視鏡下椎間板摘出(切除)術						1							1
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術								2					2
乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術)							1						1
試験開腹術										1			1
非観血的関節授動術(膝)	5	1	4	1	4		1	3	1	3	2	4	29
非観血的関節授動術(指)								1					1
皮膚切開術	1			2					1	1			5
皮膚、皮下腫瘍摘出術					1	1			1				3
皮下腫瘍摘出術(露出部以外)							1						1
皮下腫瘍摘出術(露出部)						1							1
皮弁作成術、移動術、切除術、遷延皮弁術										1		1	2
瘢痕拘縮形成手術(その他)										1			1
筋肉内異物摘出術										1			1
腹腔鏡下胆囊摘出術						1							1
痔核手術(脱肛を含む)(根治術)										1			1
鋼線等による直達牽引			1								1		2
難治性骨折超音波治療法												1	1
合計	42	32	43	30	33	41	39	39	30	37	35	39	440

## I スタッフ構成

事務長	高岡 克示	事務員	田中 知美
事務課長	濱口 雄大	事務員	松田 沙織
主任(診療録管理者兼務)	坂本 幾左子	事務員	中谷 輝洋
副主任	野田 美紀	事務員	上西 真由
		事務員	石本 仁美
		事務員	北田 巨也子
		事務員	大江 ちひろ
		事務員	恵中 奈緒
		事務員	平山 千恵子
		事務員	山本 雄貴

## II 主な業務

総合案内 受付業務 診療情報管理 診療行為入力 会計業務 入退院業務  
 診療報酬請求業務 電話/来客対応 医事統計業務 ドック・健診業務 予防接種受付  
 未収金管理 宿直業務 医師事務作業補助 施設基準届出業務 庶務全般

### ◎外来担当、外来クレーカー

- ・受診に関する診療録作成及び管理、診療報酬請求業務
- ・電話/窓口での案内・相談業務、各種文書の取扱い、外来予約管理
- ・外来診療に関する補助業務、予約管理

### ◎入院担当、病棟クレーカー

- ・入退院時における事務処理、診療報酬請求業務
- ・入院に関わる各種手続き及び文書の取扱い
- ・入院診療録管理、退院サマリー作成補助、診療情報管理
- ・入院診療に関する業務、病棟業務補助

### ◎医事統計、データ処理担当

- ・診療報酬に関する統計業務
- ・入院/外来/病棟単位/科別/各部門別統計、回復期リハビリテーション病棟統計
- ・DPCデータ作成

### ◎庶務担当

- ・寝具、郵便発信/受信に関する業務、伝票処理

### ◎ドック・健診担当

- ・事業所/保険者との契約、予約管理、請求業務、受診者記録管理、結果入力業務
- ・事業所/項目/月/日別受診者数統計、再診者管理
- ・労働基準協会と提携した夏期集団健診、秋期出張健診に関する業務

### III 総括

平成28年度 目標

●超過勤務時間減少

●目的 ⇒ 業務効率化、勤務負担軽減

●課題 ⇒ ①物理的な問題（スペースなど職場環境）  
②スキルアップ

上半期

超過勤務時間減少に取り組んだが職場環境改善を実施できず、職員入退職もあり質も低下。目標達成には至らず成果はなかった。下半期に向けて環境改善の計画を行った。

下半期

平成28年9月に受付改裝を実施。スペース不足などの環境が改善され、改裝後2か月目より超過勤務時間が減少。業務効率化も実施できており、医事課全体で成果をあげている。

また、レセプト点検のレベル向上のため、新たな算定項目や算定ミスなどの見直しを実施。医師や関連部門と算定項目のチェックを行い、約3ヶ月で算定及びレセプト点検の質が向上した。各担当者とも解釈を再度確認するなど算定ミスの軽減につながっている。

### IV 次年度 目標

- カルテ保管スペースや保管場所の改善。
- レセプト処理能力・算定業務・各担当業務・病院事務職の基本能力向上、ミスの減少
- 業務内容や適正時間に対する評価体制の改善。
- 病院機能評価対応。オーダリングシステム導入など新しい業務への取り組み。
- 2018年 医療・介護同時改定への対応。

**I 健診部構成メンバー**

濱口事務課長、田中事務員（医事課）、恵中事務員（医事課）、海谷看護師、  
西谷看護師、狭口放射線技師、中嶋検査技師

**II 実施健診**

協会けんぽ（生活習慣病予防健診）

田辺市、その他特定健診

田辺市国保ドック

特殊健診（有機溶剤健診、じん肺健診等）

労働安全衛生法に基づく健診（一般事業所健診、雇入時健診、集団健診、出張健診）

各種院内ドック（日帰り、生活習慣病、メタボ・動脈硬化、肺、甲状腺・更年期、アレルギー等）

田辺市がん検診（胃・肺・大腸・肝炎ウイルス）

白浜町がん検診（肺・大腸・前立腺）

後期高齢者健診

Q F T

B型肝炎ワクチン

公立学校共済人間ドック

職員定期健康診断（一般健診、電離放射線健診、深夜業務従事者健診、腰痛健診）

**III 総評**

平成28年度は、できるだけ多くの方が受診できるように前年度の受診者数を上回ることを目標に取り組んだ結果、少しだけ上回ることができた。異常を指摘された方に対しての受診推奨についても前年度に引き続き実施し、再診率向上につながった。また、法的な義務である職員への定期健康診断（特殊健診含む）も全職員実施できている。

平成29年度も引き続き質・サービスの向上に取り組んでいく。

**IV 年間スケジュール／月別健診者数**

平成28年 4月 4/1～協会けんぽ生活習慣病予防健診スタート 4/15～田辺市各種検診スタート 田辺すみれ苑職員健診1回目（4月・5月 82人）	82人
5月	103人
6月 田辺市役所B肝検査（68人）	153人
7月 自院職員健診1回目（130人、うち電離放射線健診12人）	94人
8月 集団健診（294人）8月下旬～9月中旬	92人
9月	120人
10月 出張健診（285人）10/12・10/13（2日間）	72人
11月	91人
12月	68人
平成29年 1月 田辺すみれハイム職員健診1回目（34人）	94人
2月 自院職員 夜勤従事者健診（44人）電離放射線健診（12人）	96人
3月	104人
	一般健診計 1169人
	総計 1922人

平成28年度 人間ドック・健康診断 総受診者数/再診率

月/項目	ドック	健診	計	有所見者数	割合	視聴力除く 有所見者数	再診数	再診率
4月	2	80	82	55	67.1%	40	5	12.5%
5月		103	103	77	74.8%	69	9	13.0%
6月		153	153	58	37.9%	47	14	29.8%
7月		94	94	41	43.6%	32	7	21.9%
8月	3	89	92	47	51.1%	42	8	19.0%
9月	3	117	120	46	38.3%	42	5	11.9%
10月	2	70	72	36	50.0%	34	4	11.8%
11月	1	90	91	66	72.5%	57	10	17.5%
12月		68	68	29	42.6%	27	4	14.8%
1月		94	94	51	54.3%	48	3	6.3%
2月		96	96	63	65.6%	55	6	10.9%
3月	2	102	104	59	56.7%	51	5	9.8%
計	13	1,156	1,169	628	53.7%	544	80	14.7%

平成28年度 集団・出張健診 総受診者数/再診率

項目	受診者数	有所見者数	割合	視聴力除く 有所見者数	再診数	再診率
集団	294	199	67.7%	164	6	3.7%
出張	285	226	79.3%	190	11	5.8%
計	579	425	73.4%	354	17	4.8%

夏期 集団健診（8月17日～9月7日）

事業所数 24

受診者数 294人

秋期 出張健診（10月12・13日）

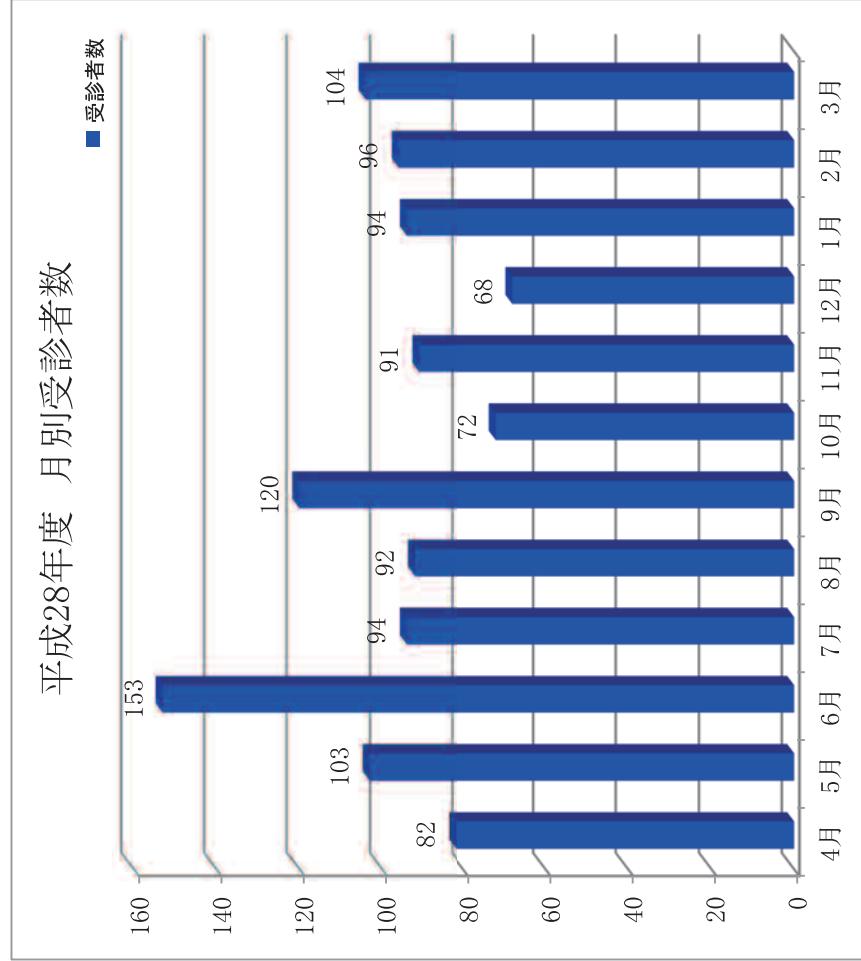
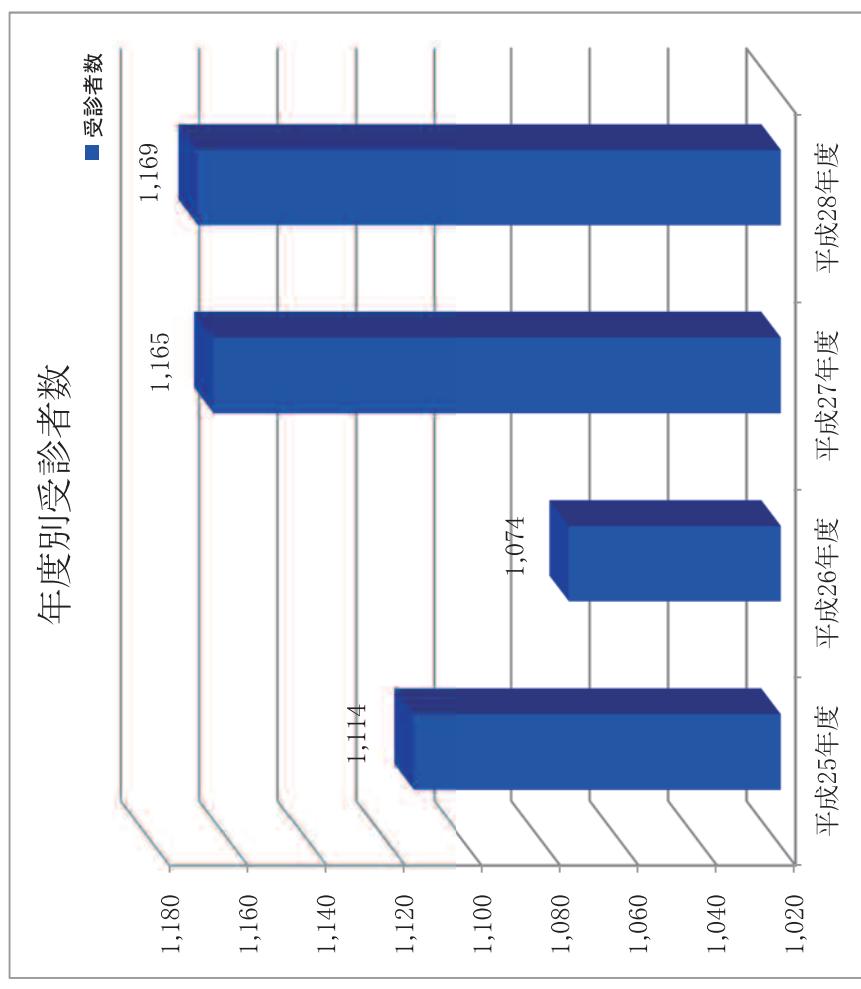
事業所数 11

受診者数 285人

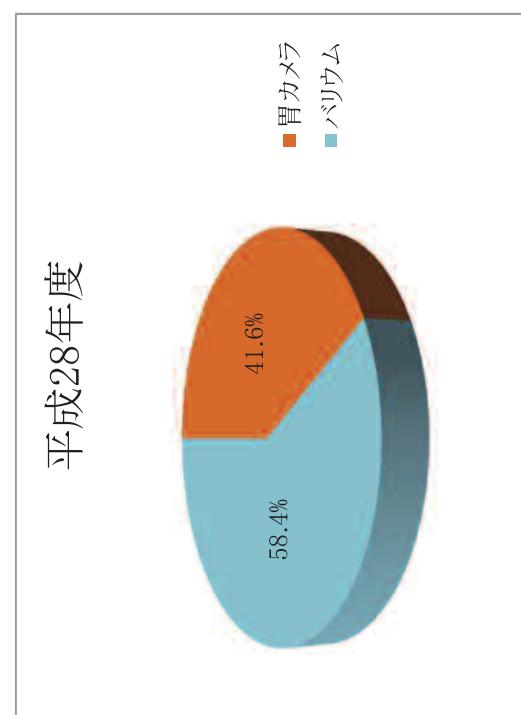
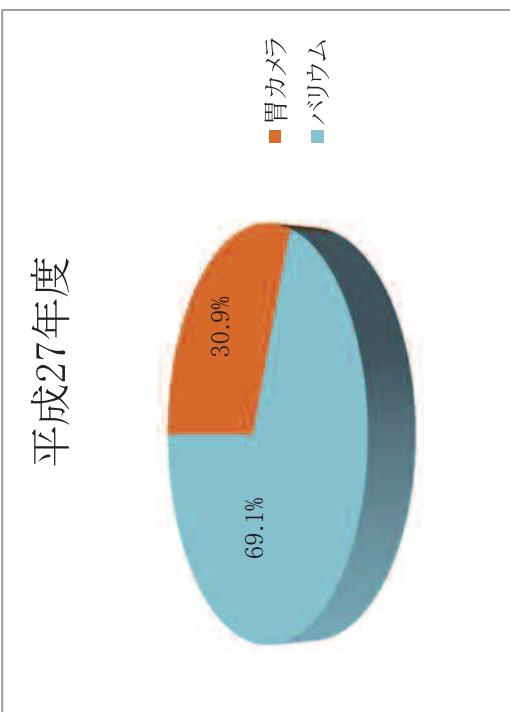
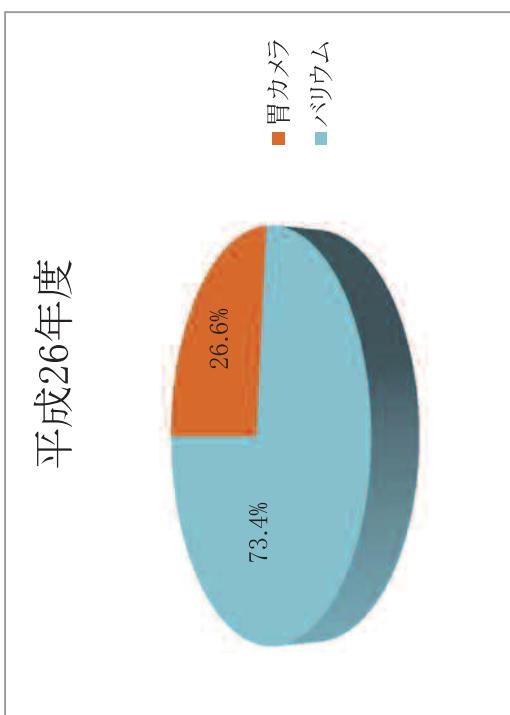
平成28年度 人間ドック・健康診断 種別受診者数

種 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ドック	胃カメラ有	2					2	2	1				1	8
	胃透視有					3	1						1	5
	一般													
一般 + 企業	胃カメラ+一般		3		1									4
	胃透視+一般		1	1			6		1	4	1		1	15
	一般(血液有)	76	85	50	39	36	39	30	57	27	49	45	51	584
	一般(血液無)			1	22	26	51	14	6	14	23	19	19	195
	特定健診			3		2		1	3	1				10
生活習慣病予防健診	胃カメラ有	2	3	7	3	7	3	3	9	6	3	5	4	55
	胃透視有	1	5	9	8	3	2	7	8	3	8	11	9	74
	一般			1		1		2			1			5
市・町検診	胃がん検診		1		2	2						1	2	8
	大腸がん検診		3	4	2				2			1	1	13
	肝炎ウイルス		1	2								1	1	5
	後期高齢者				1		1			2		1		5
	肺がん検診		5	7	1		1		4		1	1	1	21
その他	QFT・ツ反							1	1		5	1	1	9
	B肝検査			68	4		3		1				4	80
	便(細菌)			5	5	2	2	4	2	3	3	3	4	33
	B肝ワクチン				5	8	7	8				6	6	40
合 計	ドック	2				3	3	2	1				2	13
	各種健診	79	107	85	79	77	103	57	90	57	86	85	89	994
	その他			73	14	10	12	13	4	3	8	10	15	162

平成25年度～平成28年度 人間ドック・健診受診者数



## 平成26年度～平成28年度 人間ドック・健診 胃カメラ・バリウムの割合



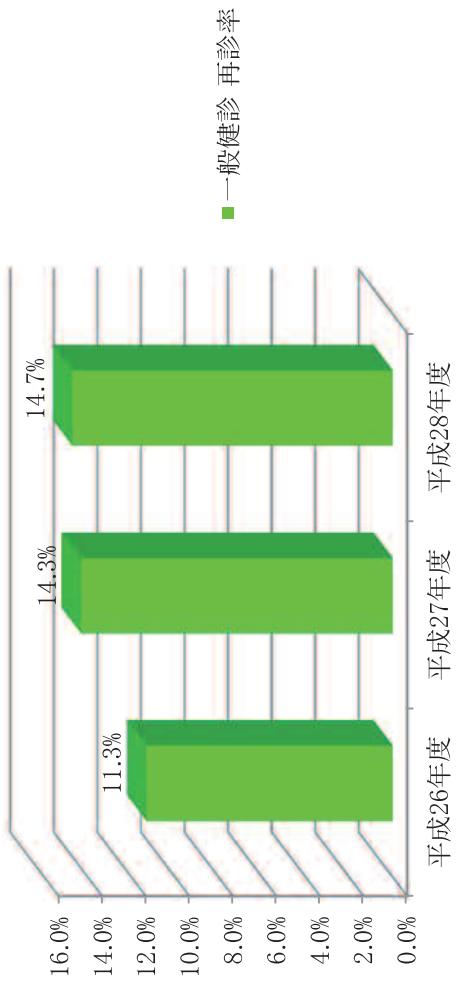
胃検査(胃カメラ・バリウムの割合)				
	検査数	胃カメラ	バリウム	胃カメラ バリウム
平成26年度	124	33	91	26.6%
平成27年度	165	51	114	30.9%
平成28年度	161	67	94	41.6%

## 平成26年度～平成28年度 人間ドック・健診診断 再診率

一般健診

※視聴力除く			
年度	受診者数	有所見者数	再診者数
平成26年度	1074	488	55
平成27年度	1165	509	73
平成28年度	1169	544	80

一般健診  
※視聴力除く



集團健診

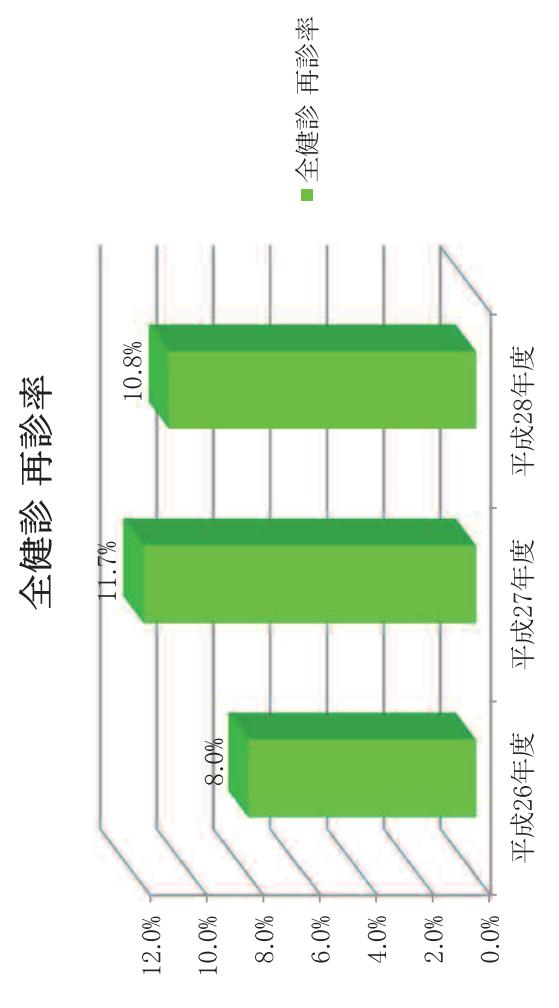
※視聴力除く			
年度	受診者数	有所見者数	再診者数
平成26年度	253	125	6
平成27年度	271	133	4
平成28年度	294	164	6

集團健診  
※視聴力除く

出張健診

※視聴力除く			
年度	受診者数	有所見者数	再診者数
平成26年度	287	159	1
平成27年度	283	163	17
平成28年度	285	190	11

出張健診  
※視聴力除く



合計

※視聴力除く			
年度	受診者数	有所見者数	再診者数
平成26年度	1614	772	62
平成27年度	1719	805	94
平成28年度	1748	898	97

総務課

総務担当者 石田 純哉

- 医療法人研医会グループ
  - . 田辺中央病院
  - . サービス付き高齢者住宅 田辺すみれハイム
  - . 医療法人社団 介護老人保健施設 田辺すみれ苑
  - . 医療法人社団 介護老人保健施設 野洲すみれ苑

## I 総務課職員構成

総務担当者 石田 純哉 (本部課長兼務)

主任 土井 千鶴

施設管理主任 岩城 寿之

事務員 中松 千明

嘱託 古久保好秀

嘱託 大浦 三夫

嘱託 南 春夫

## II 主な業務

- 人事労務管理 職員採用・求人・各種保険・各種申請書作成・給与/会計業務
- 社内広報 広告・ホームページ
- 資産管理 預金管理・銀行取引
- 社内規定管理 就業規則・内規作成の管理
- 設備・備品管理 建物設備の保守・各種機械類の管理
- 福利厚生施策 職員・施設車両の管理
- 行事・イベント運営 病院行事などの企画・運営
- 慶弔関係 関係者等への慶弔関係

## III 総評

平成27年度に医療法人研医会グループ本部内に総務課を移転し、総務業務と本部業務の分担とその各業務に担当者を配置した。平成28年度は田辺中央病院・田辺すみれ苑・田辺すみれハイム・野洲すみれ苑の4事業所を管理する部門として本部を組織し、その担当者が当該事業所の総務機能を兼務する体制となる。

## 田辺中央病院 総務課としての平成28年度事業計画として

- ②職員用駐車場費用年間240万円の削減
- ③期間限定看護師を削減し通常雇用看護師を充足させる（年間320万円の削減）
- ④平成28年10月までにセラピスト採用1名の取り組みを行う。

②の目標に対しての実績は年間309万円削減である。その原因としては元々不足していた職員用駐車場を病院周辺で数か所確保できることになったことに加え、契約金額の交渉による。

③の目標に関しては年間106万円の削減効果となり、目標達成とはならず。原因としては、年度初めに5名在職していた期間限定看護師が10月には3名分の削減となっているが、その後、維持が出来ておらず期間限定看護師を2名増員したため、年間を通じては1名分の削減効果となっている。

④の目標に対しての実績は10月までの採用は出来ずであった。但し、平成29年1月に言語聴覚士1名の採用ができ、翌年度となる平成29年4月からの入職は理学療法士2名、言語聴覚士1名が決定している。就職フェアや紹介業者へのアプローチ、各学校への求人票提出等、募集は実施しているが反応は芳しくなく、大阪などの都会へ流出している動きも感じられている。

上記の平成28年度事業計画を踏まえ、平成29年度の取り組み目標としては、人材確保を重点的に取り組む必要を感じている。地域的に専門職となる為の学校も少なく、流出し易い土地柄であるため、在職者・求職者が興味持つ医療機関としての新しい取り組みが求められる。今後、総務課として「魅力のある地方民間病院」を作るための施策を考えている。

## 【人事関係】

(平成28年度月別入退職者数)

入職者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護師	7		1		1	1				1	1	1	13
准看護師			1								1		2
看護補助・助手	3	1									1		5
セラピスト	3									1			4
薬剤師													0
事務職	1			1		1			1	1	1		6
その他	3							1		1	2	1	8
医師									1				1
計	17	1	2	1	1	2	0	1	2	4	6	2	39

退職者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護師	1		1		1	1					2		6
准看護師	1			1	1						1		4
看護補助・助手	2		1		1	3							7
セラピスト												3	3
薬剤師													0
事務職				1	1				3	1			6
その他	2				2	1				1	3	2	11
医師													0
計	6	0	2	2	6	5	0	0	3	2	4	7	37

職種	入職者合計	ハローワーク	紹介業者	職員紹介	その他紹介	直接
看護師	12		7	3	2	
准看護師	2	1		1		
看護補助助手	5	2	2	1		
セラピスト	4		1		3	
検査技師	0					
放射線	1					1
薬剤師	0					
事務職	4	3			1	
調理員	4			3	1	
その他	6	5				1
医師	1					1
計	39	11	10	8	7	3

## 【就職フェア等参加】

- |     |                   |
|-----|-------------------|
| 4月  | 和歌山看護専門学校病院説明会    |
| 5月  | 県立なぎ看護学校就職説明会     |
| 7月  | 福祉・介護のしごとフェア      |
| 8月  | 関西医療大学就職説明会       |
| 8月  | 関西総合リハビリテーション専門学校 |
| 11月 | 薬剤師就職説明会          |
| 1月  | 田辺地域企業合同面談会       |
| 2月  | 福祉・介護のしごとフェア      |

## 【平成28年度 職員表彰者】

主催機関	表彰名	氏名
田辺市救急医療週間推進協議会	救急医療功労者表彰	絵名由美子 山下 仁美
田辺中央病院	永年勤続表彰 (勤続10年)	寄山さつき

## 【平成28年度 有給取得率】

部門	人数	前年繰越	当年支給分	支給合計	年休残日数	年休取得日数	年休取得率	年休取得率
常勤看護師 准看護師	24	369	484	853	489	364	75.2%	67.6%
非常勤 看護師 准看護師	6	65	82	147	81	66	80.5%	55.4%
看護補助者 看護助手	9	57	156	213	84	129	82.7%	69.8%
看護部門計	39	391	722	1113	554	559	77.4%	66.9%
薬 局	3	37	54	91	75	16	29.6%	98.6%
放射線科	3	49	54	103	81	22	40.7%	36.0%
リハビリテーション科	15	159	228	387	249	138	60.5%	61.1%
検査科	4	62	72	134	108	26	36.1%	67.7%
栄養課	6	102	108	210	189	21	19.4%	15.2%
事務部門	8	151	156	307	237	70	44.9%	46.4%
合 計	78	951	1,394	2,345	1,493	852	61.1%	59.3%

\* 人数に未計上…採用日より1年半未満の者・年の途中で退職した者

## 【平成28年度 超過勤務時間表】（平均時間）

### 上半期

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
看護部	18.2	15.1	15.7	13.5	12.9	12.7
リハビリテーション科	9.8	8.7	6.5	7.2	9.9	6.1
放射線科	31.6	19.8	25.6	22.1	21.8	29.3
薬局	9.0	6.5	9.0	6.8	5.8	7.5
検査科	13.2	9.1	10.0	12.0	9.9	12.0
事務部門	18.5	15.4	13.1	14.4	12.3	14.3
栄養課	14.8	16.3	18.7	19.7	19.8	19.4
全 体	16.4	13.0	14.1	13.7	13.2	14.5

### 下半期

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平成28年度	平成27年度
看護部	12.5	12.9	15.0	26.4	15.8	13.7	15.4	17.9
リハビリテーション科	7.3	9.0	7.5	20.0	6.5	6.0	8.7	14.1
放射線科	26.0	20.0	31.1	29.5	39.3	27.2	26.9	28.0
薬局	4.5	6.7	7.6	7.4	4.5	4.0	6.6	14.9
検査科	16.0	12.7	9.9	9.1	11.1	12.7	11.5	10.9
事務部門	16.0	15.1	12.3	14.5	10.6	10.2	13.9	24.9
栄養課	21.8	24.2	27.0	31.7	29.0	24.8	22.3	27.3
全 体	14.9	14.4	15.8	19.8	16.7	14.1	15.0	19.7

### 前年度比

看護部	▲ 2.5	↓
リハビリテーション科	▲ 5.4	↓
放射線科	▲ 1.1	↓
薬局	▲ 8.3	↓
検査科	0.6	↑
事務部門	▲ 11.0	↓
栄養課	▲ 5.0	↓
全 体	▲ 4.7	↓

## 【防災関係】

(防火・防災訓練等)

平成28年 6月23日 : 5階病棟552号室を出火場所と想定して防火訓練を実施。

平成28年11月21日 : 4階病棟456号室を出火場所と想定して防火訓練を実施。

〃 : 紀伊半島沖を震源とする巨大地震が発生し大津波警報が発表されたと想定して、津波避難訓練を実施。

平成28年12月23日 : 田辺地域災害医療訓練に参加。

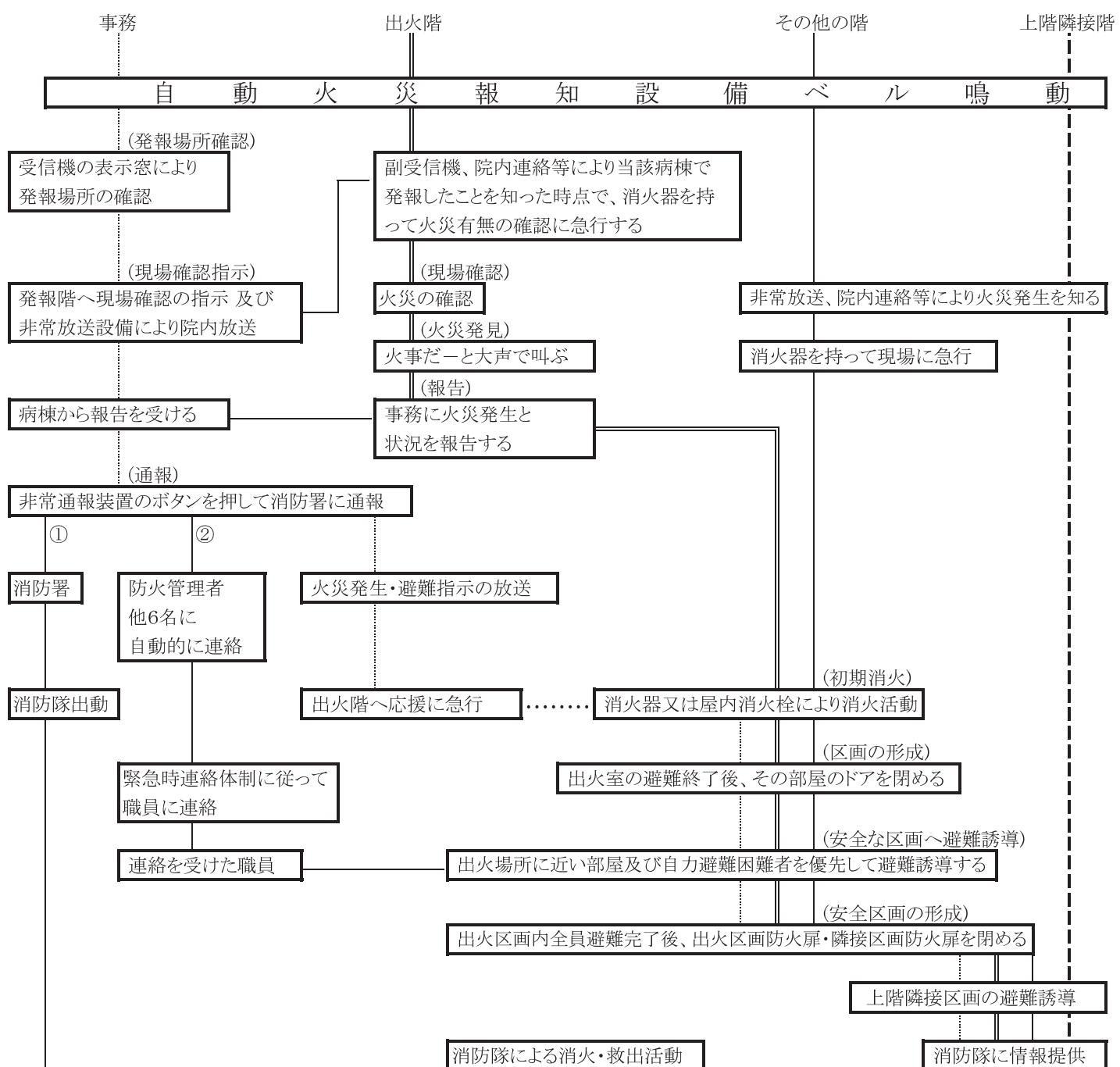
◎火事は起こさないことが一番です。厨房関係は当然のことですが、特に喫煙の際の火の取り扱いには十分注意すること。

◎大地震発生時、揺れている間は自身を守る行動をとる。(頭部の保護等)

揺れがおさまったらすぐに火の元のチェックと火災発生有無の確認。

通路を確保(障害物の除去やドアの開放)して在院者をできるだけ高い階へ避難誘導する。

## 火災発生時の対応



サービス付き高齢者向け住宅  
**田辺すみれハイム**



### 【概要】

サービス付き高齢者向け住宅「田辺すみれハイム」は併設事業所の田辺すみれ訪問介護ステーションによる訪問介護にて、高齢者の方が日常生活の支援を受けながら暮らすことが出来る場として平成26年9月1日に開設。

50室の居宅を設け、医療については田辺中央病院から訪問（通所）リハビリテーション・訪問看護・田辺すみれ苑での通所リハビリテーション・その他の事業所による通所介護や福祉用具レンタル等、各々の利用者に合わせ、様々なサービスを組み合わせることが出来るのも特徴となっている。

### 【職員構成】

管理 者：米澤 美智代

サービス担当責任者：鈴木 かな子

サービス担当責任者：山崎 孝江

サービス担当責任者：玉置 三津子

### 【実績】

田辺すみれハイムの取り組みとしては、季節に合わせたレクリエーションの開催や田辺中央病院所属のセラピストによるレッドコードを使用した介護予防訓練を継続して行い。契約数は常に48室前後で推移している。

訪問介護事業として、介護保険法と障害者総合支援法に基づく、一般家庭への訪問介護サービスの拡充を図り、新規23名の方への訪問介護サービス提供に繋がった。また地域に密着した施設を目指した活動として、中学校の吹奏楽部の演奏会を開催できた事や、町内会の盆踊りに参加できた事が挙げられる。

### 【次年度取組み】

課題としては訪問介護事業単体での収支の安定と訪問介護サービスの充実である。

地域に密着した施設となることを目指し、地域の行事に積極的な参加を行う。

職員のスキルアップを図るために研修を毎月行っていく予定である。研修により入居者様の満足度が上昇する等の効果が得られているので、今後も研修に反映していく。

平成30年度に向けて、在宅訪問介護の利用者の増加を見越して一般家庭への訪問介護、訪問介護員の増加を図る。

## 【平成28年度 職員年間研修】

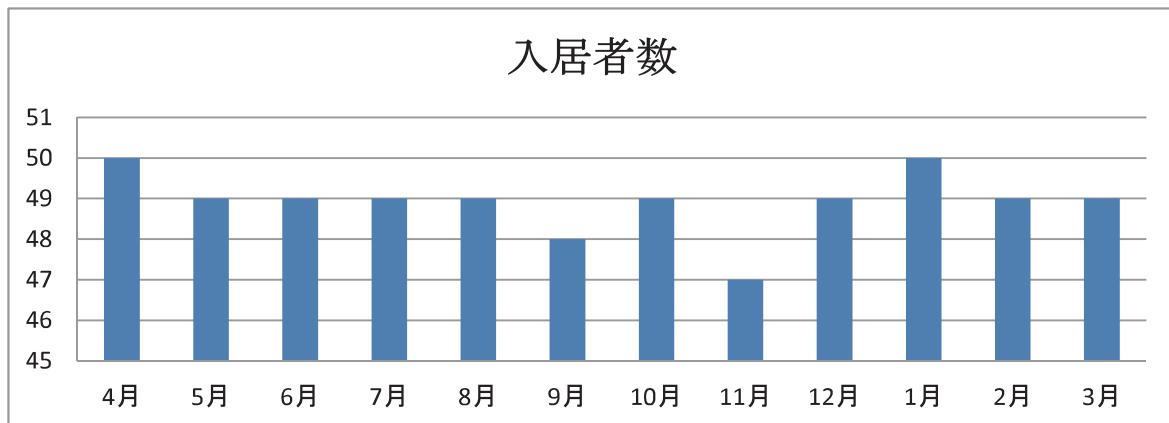
事業所名：田辺すみれ訪問介護ステーション 管理者：米澤 美智代

対象者	対象者条件
A	未経験者(経験1年未満)
B	1年以上3年未満の経験者
C	3年以上の経験者

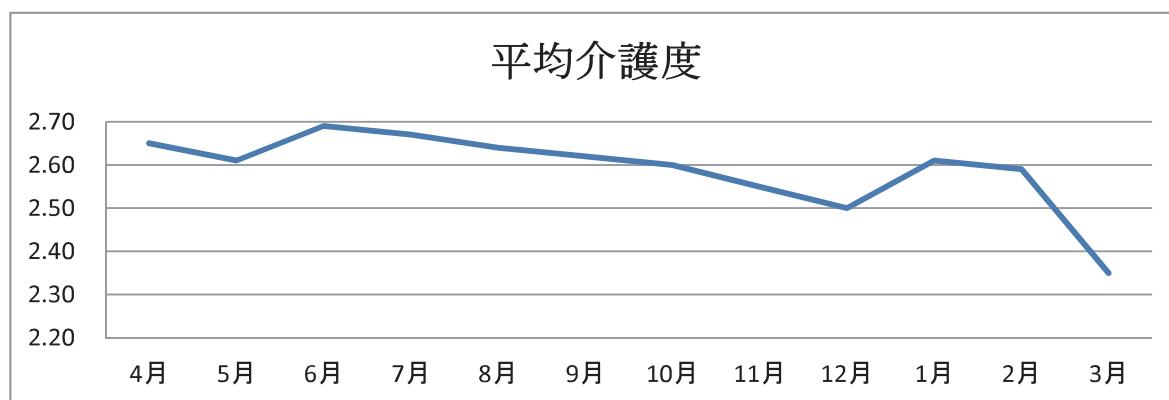
	実施日	研修NO	プログラム	研修担当者	対象者
4月度	4月27日	1	非常災害時の対応・接遇マナー	吉田	全員
5月度	5月31日	2	介護保険制度・障害福祉サービス	吉田	全員
6月度	6月22日	3	消防署による火災予防・救命	田辺市消防本部 西氏・浅山氏 浦野氏	全員
7月度	7月27日	4	高齢者・障害者の身体と疾病の特徴 ご利用者様の情報共有について	吉田	全員
8月度	8月24日	5	認知症と認知症ケア	南和歌山 医療センター 高野氏	全員
9月度	9月28日	6	共感的理解と基本的態度 コミュニケーション技法と合わせての研修	吉田	全員
10月度	10月26日	7	医療行為・ターミナルケア	吉田	全員
11月度	11月16日	8	プライバシー保護の取り組み	吉田	全員
12月度	12月21日	9	感染症について 嘔吐物の処理手順	米澤	全員
1月度	1月25日	10	オムツのあて方	ユニ・チャーム 浪井氏	全員
2月度	2月22日	11	お薬について	どらや薬局 稻田氏	全員
3月度	3月28日	12	次年度の研修計画立案	米澤	全員

## 【入居者状況】

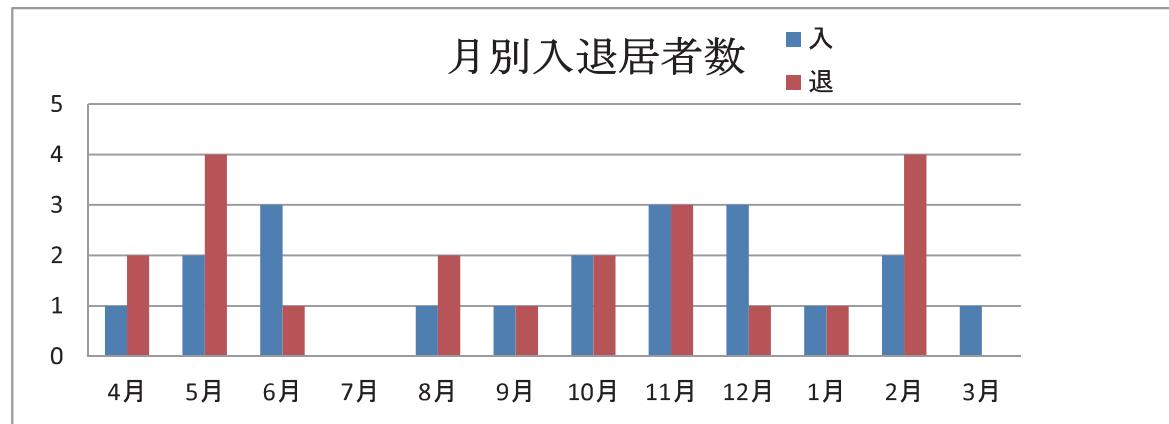
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
50	49	49	49	49	48	49	47	49	50	49	49



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2.65	2.61	2.69	2.67	2.64	2.62	2.60	2.55	2.50	2.61	2.59	2.35

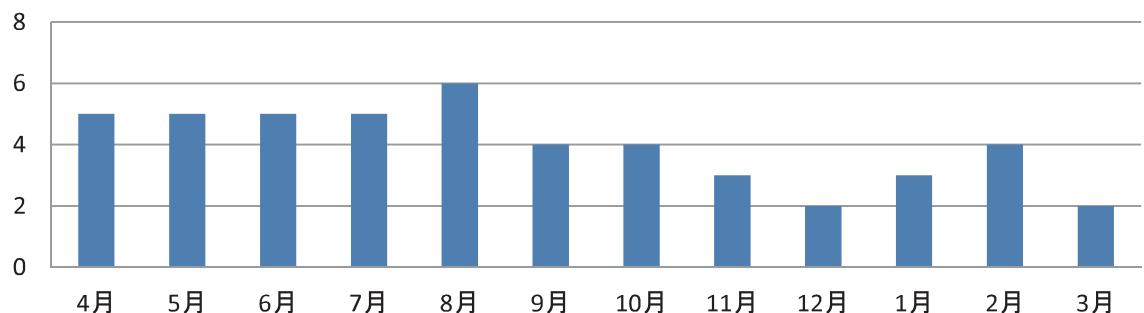


入	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退	1	2	3	0	1	1	2	3	3	1	2	1
	2	4	1	0	2	1	2	3	1	1	4	0



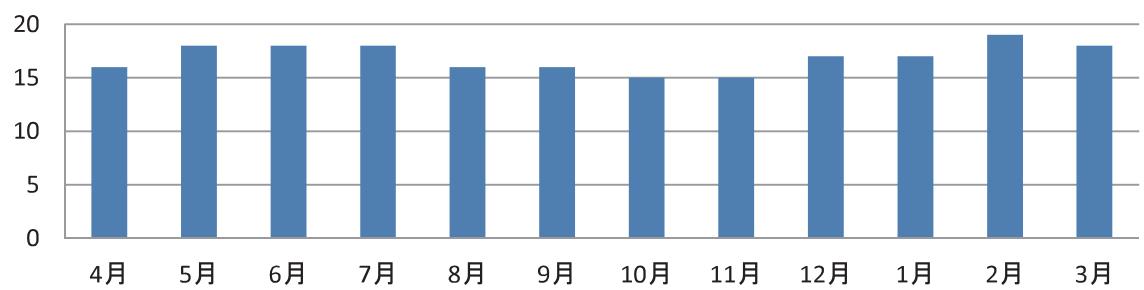
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
5	5	5	5	6	4	4	3	2	3	4	2

訪問看護利用人数



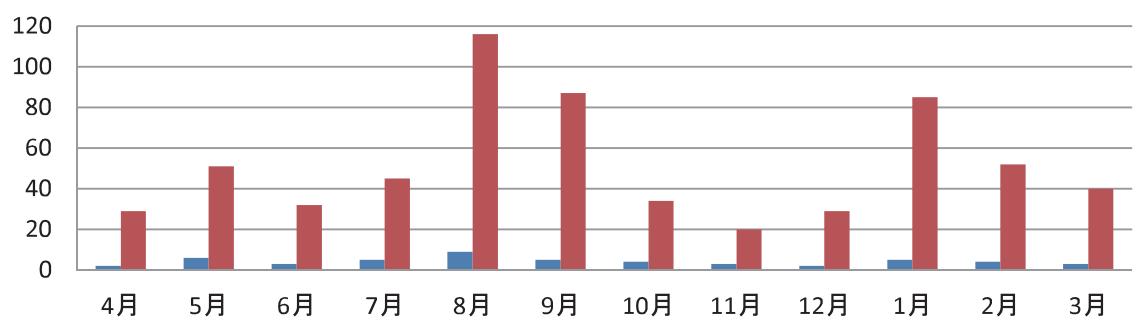
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	18	18	18	16	16	15	15	17	17	19	18

訪問リハビリテーション利用人数



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	6	3	5	9	5	4	3	2	5	4	3
29	51	32	45	116	87	34	20	29	85	52	40

入院者数と延べ入院日数



## 各 種 委 員 會 活 動



当委員会は原則、月1回開催しております。（第3水曜日17：00～）

委員会の構成は、医局2名（院長、副院長）、看護部門5名（看護部長、副看護部長、看護師長）、放射線科1名、検査科1名、薬局1名、リハビリテーション科1名、栄養課1名、地域連携室1名、事務部門4名の17名です。（場合により、各委員会から担当者が出席することがあります。）

当委員会は、当院の活動状況の報告と実施予定の計画についての検討・承認等、病院運営に関わる事案についてを議論しております。病院の運営に関する最終承認の場になるところであるため、議事録は委員会終了後1週間以内に院内LANに掲示し職員全体に周知しております。

『会議は皆で作るもの』のコンセプトのもと議長を交代制にし持ち回りで行っております。

各部署の責任者が全て参加する会議ですので、報告・承認のみではなく、病院運営に関する積極的な提案ができ、病院の活性化をさらに図れる場にしたいと考えます。その為、各部署が毎月の実績に対し状況分析を行い報告する。さらには今後への取り組みを考えることを習慣として行えるようにし、事務方だけでなく看護部門・パラメディカル部門等が病院の経営に参加する意識を高め、病院運営への積極的な参画を促進することを目標に運営しました。

今年度の主な報告・承認・協議議案は下記のとおりです。

各部署からの実績報告（毎月）	病院機能評価については今年度中に申込み予定
人事関係報告（毎月）	事業所集団健康診断（上富田出張健診）について
平成27年度診療実績・平成28年度事業目標	メディカルディレクション 増収効果について
病院機能評価に向けての取り組みについて	研医会グループの組織変更について
オーダーリングシステム導入についての現場確認・訪問日程について	
看護部門人事について	活動（症例）報告会の結果について
受付の改装について	保健所立入検査について
ストレスチェックについて	防火訓練について
病院フェアについて	病院機能評価について平成29年9月の受審希望で申込み済
田辺保健所立入検査について	病床稼働について（回復期リハIへの墨上げ課題）
職員駐車場について	病床稼動率と平均在院日数について
鎌倉病院についての報告	田辺すみれ苑秋祭りボランティアについて
病院フェアについて総務課報告	人事考課について
職員駐車場について総務課報告	職員懇親会について（エクシブ白浜）
オーダーリングシステム導入検討の進捗状況	厚生年金基金代行返上後の新制度について
内科医勤務開始について	研修申請について
田辺市商工会・ヤーヤー祭りの参加について	平成28年度事業報告と平成29年度事業計画について
言語聴覚室と別棟職員用更衣室について	田辺すみれホーム開設準備・進捗状況報告
3階男子更衣室について	田辺すみれホーム内覧会について
感染予防の為の隔離室について	就職フェアについての取り組み報告
病院協会ソフトボール大会について	病床稼動率について
田辺地域災害対策訓練について	看護職員採用についての報告
活動（症例）報告会について	インフルエンザの院内感染対策について
PACSネットワーク分離工事について	新年会について
病院協会学術大会について	救急車の受入れに関する報告
レクリエーション委員会について	各部署における平成28年度検証と今後の取り組みについて
摂食・嚥下障害の検査について	平成29年度の取り組み（目標）について
事業所集団健康診断について	
メディカルディレクション（コンサルティング業者）について	